

三 16
2288 #16
1
特
號
卷

柳川重介畫

昭和十三年
五月二十三日
不

改
正
海外諸島圖說

前集

東都
弘道軒藏

海外諸島圖說序

凡聞殊國之名者必當詳問其俗之所好如何若其善耶記之以為吾身之法苟其不善亦記之以為吾身之戒豈宜漫問其國人物如何土產品類如何地之方位寒暖廣狹如何而止耶夫所謂學問者非獨目覩經傳子史為然而已其所見聞苟有益於吾身者皆可以為學問也是以禹拜昌言大舜好察邇言孔子曰三人行必有吾師焉展卷此圖閱其人物讀其圖說由圖說

而考其風俗由風俗而論其所好則善惡邪正無不歷歷可見善者記之以為吾身之法惡者記之以為吾身之戒孰非吾師哉嘉永甲寅秋八月齋藤寬撰并書

勢松
加本
白粉所

海外諸島圖說

渾地五大洲

亞細亞洲

唐土天

韃靼屬此大洲

利未亞洲

自天竺西方至南方之界

歐羅巴洲

在天竺之西北一界

亞墨利加洲

北南洲

在於日本東南之大界

墨瓦臘尼加洲

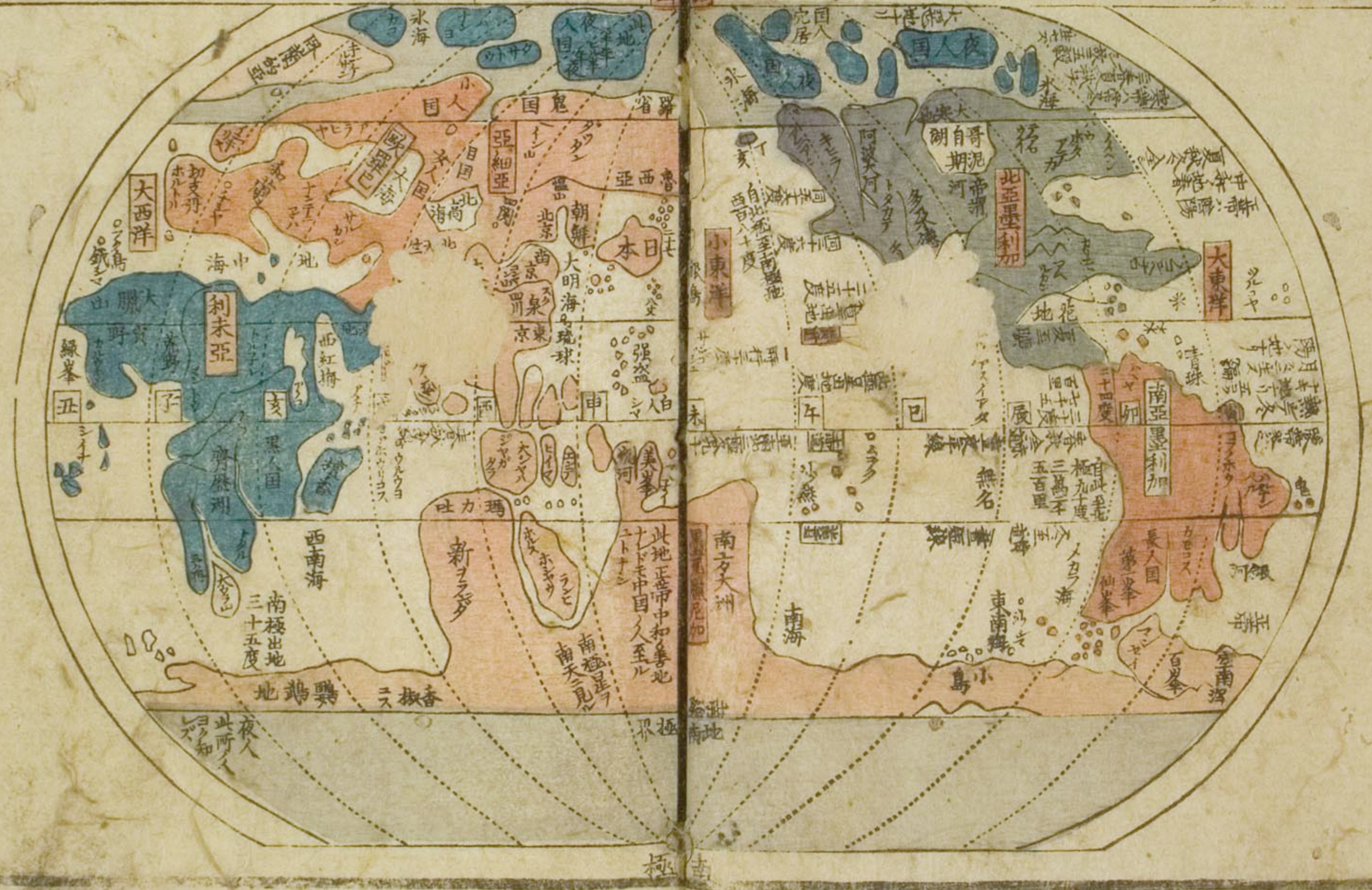
自赤道至南極下之一大界

以上

此圖和蘭の製する所
 世も精粗分國全圖
 大小精粗分國全圖
 あつた似たものも大
 小東洋の大洋小西
 羅巴の未西の南北
 聖利加の未西の南北
 日本海土天の西の東
 細西の北の南の東の
 地都の北の南の東の
 春秋二分の日道
 下の地あり暖帯と
 の地あり暖帯と
 河の地あり暖帯と
 も地あり暖帯と
 各地あり暖帯と
 是の地あり暖帯と

北方直道二十五里
 高見の瀨北へ行くと
 高日本三十三度
 四十度あり

張朝 萬國里數
 二百七十里
 二百五十里
 二百七十里
 三百里
 二千三百里
 一万五千里
 五千五百里
 五千五百里
 六千里余
 九千里余
 二千五百里
 三千二百里
 一萬里余



極

大明



大明の唐土あり世に國名を改むるがゆゑに定る号あり
 國人自ら稱して中華を中國といふ大明の太祖の姓は
 朱諱は元璋字は國瑞濠州の人はあり元は代りて
 天下を有て帝位に即き
 故に以て國号を漢地を分て兩京十三省五十四道と
 する凡十七世二百七十七年より季自成り亂る國を
 國亡び遂に大清の世とあり
 西漢人の稱して支那

大清



大清の今の唐土の号あり清の大祖姓の愛新覺羅
 名と奴爾哈齊といひ長日山の東に居て國を滿州と
 号を大祖二十五歳にして一十七歳にして兵を
 興して諸蕃を攻平け明の萬曆四十四年小帝位を即
 ちて年号を天命と改む世祖の世に明の乱は急なり
 遂に代りて支那の地を有てり支那の位冠は本國の
 風を隨て改むといふも文物制度は多く明朝の舊ま
 依り今の滿州蒙古圖別時ホの地國をわたりての屬州と
 ある故に地の廣大ありて古の支那は倍を

韃靼
鞞



韃靼の西洋の人呼ば「タルタリア」と云々地を失りて
 亞細亞列の半を二分し人種一あり大抵
 姓質粗暴なり勇武多し其地を遊移
 して定居する者稀あり今此大地を分て三部とて東
 部の者は支那に属して支那鞞といひ南部の者は
 ハカル謨幾社に格斯當撒馬兒罕あり地國全路して
 自は鞞といひ北の者は魯麻亞に属して魯麻
 亞鞞といひ此部の地最天よりして東ハハカムサツカ
 ンあり西ハコサツケシヨ隣あり

朝鮮



於鎡ハ古ハ周の武王箕子と封じたるの地前漢より中葉
 よりなりて新羅高麗百濟の三國あり又是と馬韓
 弁韓と云ふ所の地ありて新羅勢盛りて高麗百
 濟を併て之韓と云ふ後後梁の時ハ海軍師王寔
 ありての新羅を代りて高麗王と稱して松岳の地
 都を子孫相傳ふると四百余年ありて徳衰ハ政乱を
 て其臣季成程是と奪ひ自多して國を朝鮮の古より
 復を其地分て八道と一府別郡縣を置き文物制度
 ありて支那の風ありて南洋より此國を稱してコレヲ
 朝鮮ト云ふと云ふ

元貞吟

東越朝の一部

珍世女直と云

此の世武

支那にゆ府

則太寧宗

親務餘の

三衛と置東

北の外蕃

其酋長又官と擡て是と治めむ

琉球へ其地南海の中よりあり上古の世

孫氏成者始めて其國

至たりと附屬之省

三十六島

王城と首里

と云此地

氣温於て温暖

霜雪あり

海深かり

人のあつて國と呼び

ソウキウレ又コレエオレといふ

七

七



東京



東京ハ乃ち安南國アナムクニより古漢コカンの時の交趾コウチ九真クワン日南ニツナン三郡
 の地あり宋ソウの対タイは丁健テイケンあり昔イマ其地チは王オウとあり
 して婚コンて支那シナと別國ベツクニと成ナリ是コノよりして魏エイ氏シ李氏リシ陳氏チンシ
 敷世シキセ沿革コノトキノキリあり明メイの嘉靖カシヤウ年中ニウヂウより其國コノクニ亂ミダマシをて其地チ
 遂ツイは東京トウキョウと廣南コウナンとの二國ニクニを分ワケつ隣國リンクニありといふ南洋ナンヤウの
 人ハ東京トウキョウを「ドンク井」ドンクイといふ廣南コウナンを「コミニニナ」コミニニナといふ此地
 共に氣性キセイ温暖オンマンより金銀キンギン肉桂ニクキ胡椒コウカ砂糖サトウ象牙ゾウゾウ象牙ゾウゾウ象牙ゾウゾウ
 出人シュツジンハ多オホシくといふ赤アカくといふ孔夫コウフ子の教コウと崇信ソウシンを

答加沙谷



答加沙谷ハ古の昆舍那国あり此國南洋の人呼で「ホルモラサ」
 と云ふ亦「タイラ」云々といふ乃支那南海中の一島なり支那の人
 臺灣といふ明の村は海賊の徒屢是に據る其は和蘭の人
 海に過高きとて及んで此地を有て城を築て「モエラ」
 号せり然るに清の順治十八年鄭經の時より改て東寧
 と号す其後鄭克塽清に降るに及んで清朝より臺灣
 府及び風山沱羅の二縣を置き福建の内は属を其土人の
 裸躰にして風俗野鄙且は鳥獸を獵る食は元の氣味
 温暖あり故に物産の甚豊饒あり

呂宋



呂宋ハ支那の廣東の南海中ニ在リ「リエニア」といハ其近傍
 又海島甚多一是ト稱孫トシ「ピクピイ」トイハ其中ニ於テ
 呂宋最大あり本朝の元龜三年ニ當リテ以西把尼亞國ニ
 併ギトシ波國トリ守ト置テ是ト洛メ并ハ其近キ強
 島の事トモ教テ司トシテ居所の府城ト「マニラ」と
 いハ此國氣候炎熱物産多饒トシテ強穀稔菓黄金ト
 珠胡椒砂糖蜂蜜活夫藍沁畜獸多

刺答蘭



刺答蘭此地本「ラトロセ」す「テラチバナ」中「マリア子ス」す「アハ
 シエ」ラ「デシ」とり「漢人」を「監島」とり「又」在「島」影「て」日「本」の
 「正」南「海」中「日」あり「氣候」暑「熱」小「く」人「物」甚「賤」陋「あり」
 「又」島「大」小「あり」す「亦」皆「以」西「把」尼「亞」國「は」屬「す」「イスハニ
 ア」の「海」島「亭」露「國」又「以」西「把」尼「亞」國「の」大「島」を「屬」す「わ」く「て」呂「宋」の
 「諸」島「は」赴「く」者「は」く「び」此「島」は「船」を「裝」す「て」數「日」を「て
 而」後「發」す「と」り「す」

吼哇



吼哇此國本名「シヤワ」とりふ和蘭のうへハ「ヤハ」とりふ別シヤワ
の轄あり其地赤道の南に在て東北波甘匿は西北
蘇門答刺は距りて海中の一大島あり此地君長最多
あり島中「ラタラ」板渡の和蘭より置所の府あり最盛
と此和蘭所領の地の古ハ「シヤガタラ」と号し今ハ「ハタアヒア」
とりふ是和蘭人東牙花國所領の在列の中は移て第一
の大都ありて多く小倉吏及部下の精兵一萬六千人大船
五百艘あり凡此總國土地極て豊饒りて物産夥しく
殊に米穀糖菓胡椒砂糖香藥及び金銅多し

蘇門答刺



蘇門答刺一名大波巴那とりよすく南海中の大島なり
 其地赤道の北五度す又起りて赤道の南六度あり
 故又炎熱殊々甚しく氣候極くお順あり春秋二六
 陽下其上を過ぎ陽光焼がごとく毎日夕又あまは暴
 風猛而雷電多し此地君長一あり西北より南をいそ
 可せしのみ又属し東南にあり者いそふか元味より属し
 土人の言語大抵滿刺加國と同し其姓高誇りてあ
 邦の人を軽んで天下の中己が國を勝るもの地ふし
 男

暹羅



暹羅の古赤土國ありと云ふ「シヤム」ヤムと「セイヤム」といふ此
 北極の出地十度又起りて十八度あり支那の南極蕃
 乃中より移りて北極大なりて帯ひ亦を盛なり國內分て
 十二度と云ふ海國の東端塞滿刺かあり後主は是より
 後彼を此地都て物産豊穰して雲銀銅錫漆香
 菓椰子蘇木胡椒蘆會安惠香油と産と其多類も
 「シヤム」といふ一名「オテア」といふ人居移りて繁華あり此國
 政教文物屋室寺觀等の制多くハ亜刺敢國と同ト云ふ人
 々も佛法を崇信す

羅烏



羅烏の此國支那より其地安南の西北より其地漢の時より
 又「ラオス」とり其地安南の西北より其地漢の時より
 哀字國の地あり胡朝の永楽二まりの酋長支那の朝
 貢は是日命と始雲南省の部小入て其酋長宣慰司の官
 と授く其年方物と貢と此國都而深林多く象及び
 一角獸と産とこの國とて「ラカンク」とり人氏多し
 あり

莫卧爾



莫卧爾國本名「モゴリス」又「モゴルス」といふモゴルハ乃らその國
 主の尊号少くも無とあり尊とあり義あり此國の古の
 王名後の此モ卧爾乃始祖「タルラレ」の韃靼の部中
 播馬兒汗國に誕生したる人なり莫武編後海あり兵具
 一切を東向し所なくは勝て遂に海陸第一子
 四百余年のありては他國を破滅して其後主とあり所
 領三十八大部あり其地まで大なる國都を「アガラ」といふ印
 度國第一の大都なり其の城は赤石を以て築く
 其の色三種なり黄色と黒色との人の多く佛教を崇
 信し白色の人の皆向ふ教を崇言を此國西洋人分ち領を

百兒齊亞の西にカロルシヤと云ふ地あり或は曰は是古人の

此國の上古より名を著し其地廣大にして物産殷富兵馬強盛其國十五道とを其國に於てハバシと云ふ美麗繁華の大城と云ふ國人北才多あり者色白く南方多あり者ハシヤと漢語に云ふものあり



亞一 亞尼亞の地百兒齊亞あり

亦上古より有名の大国

として土地を廣く



二部

今此國

多くの度ル格

属するその東境の地ハシヤと云ふ百兒齊亞あり



屬する

亞媽港

一名カオバ又マコウロ

支那の人の香

山邊のいふ支

米の産香

山縣の海岸の

一島あり始ハ曠漠無人の

地あり

波お杜瓦

国の人此所へ来り

居て城をきびぎと高賣

繁華あり地とあせり



爾格

一名トルケイ亦名オットマセイキ

の夕多

之列の間は跨り二十

五所大

鎮を置

バササス

サギアス

木の官と

暑り是を治む其

国於て

コニス

一ノボ

南

北

西

東



兵と用ゆると廻りなまは併せ負所の国を多しとらふ

馬加撒爾の島東南海中の一大島にして其地赤道の下なる

故に氣候炎

熱物

産豊

饒りて米穀

椰子黄金象牙白檀

代菓

多し

此國

中馬の城と食カ

百部との二王ありて是を命り治めり



嘉永甲寅初秋官許

弘道軒藏



